大阪大学

研究者が受けたくなる審査プロセスをつくる
―社内研究倫理審査高度化プロジェクト―

鈴木径一郎（大阪大学ELSIセンター　特任助教）

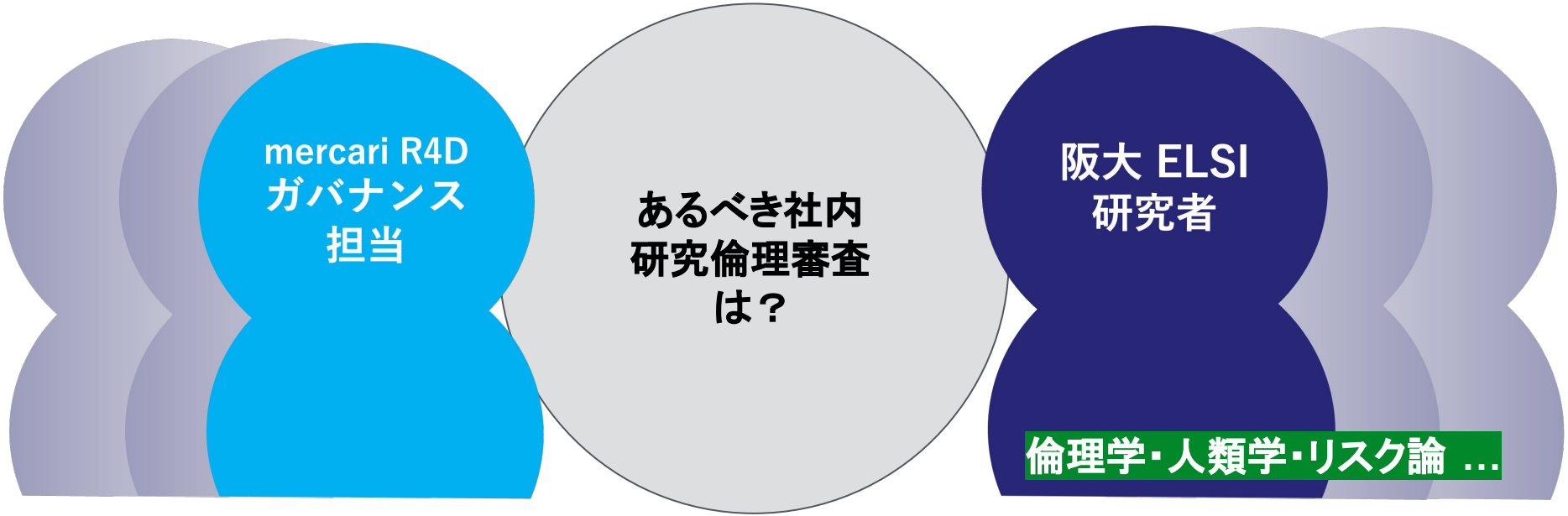
2024年7月19日

大阪大学 社会技術共創研究センター
Research Center on Ethical, Legal and Social Issues

Osaka University
Research Center on
Ethical, Legal and
Social Issues

どんなプロジェクトか？

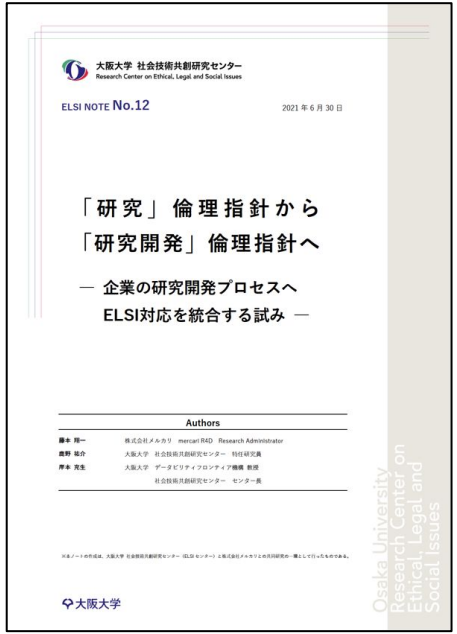
実際の課題を題材としたアクションリサーチ



プロジェクトのたどった流れと成果

ステップ1

研究開発倫理指針の改定[1]


大阪大学 社会技術共創研究センター
Research Center on Ethical, Legal and Social Issues

ELSI NOTE No.12　2021 年 6 月 30 日

「研究」倫理指針から
「研究開発」倫理指針へ

― 企業の研究開発プロセスへ
ELSI対応を統合する試み ―

Authors

藤本 翔一　株式会社メルカリ　mercari R4D　Research Administrator
鹿野 祐介　大阪大学　社会技術共創研究センター　特任研究員
岸本 充生　大阪大学　データビリティフロンティア機構　教授
社会技術共創研究センター　センター長

※本ノートの作成は、大阪大学 社会技術共創研究センター（ELSI センター）と株式会社メルカリとの共同研究の一環として行ったものである。

大阪大学

Osaka University Research Center on Ethical, Legal and Social Issues

- ナレッジの属人化・「自主性依存」のリスクを回避するには？
- プロセスのどこに介入すれば理念が効率的に浸透するのか？
- 研究者への過度な負担を避けつつ、創意の発揮を促すには？

ステップ2

アクション後の課題の再特定

ステップ3

審査申請フォーマットの改定[2]

大阪大学 社会技術共創研究センター
Research Center on Ethical, Legal and Social Issues

ELSI NOTE No.40　2024 年 4 月 8 日

Go Bold な研究開発を支える倫理審査のための申請書導入

mercari R4Dにおける取り組み

Authors

井上 満紀　株式会社メルカリ mercari R4D　Research Administrator（2024年4月現在）
肥後 来　株式会社メルカリ mercari R4D　Researcher
大阪大学 社会技術共創研究センター　特任助教（2024年4月現在）
鹿野 祐介　大阪大学 CO デザインセンター　特任助教（2024年4月現在）
鈴木 孫一郎　大阪大学 社会技術共創研究センター　特任助教（2024年4月現在）
小林 茉莉子　株式会社メルカリ mercari R4D　Researcher（～2023年5月）

※本ノートの作成は、大阪大学社会技術共創研究センター（ELSI センター）と株式会社メルカリとの共同研究の一環として行ったものである。

大阪大学

Osaka University Research Center on Ethical, Legal and Social Issues

定例会議（隔週）での論点

運営チーム内で議論されていた研究倫理審査プロセスの「高度化」とはどういうことだったのか？
また、その主な論点とは？（2021年6月～2022年5月末の議事録から抽出）

主体	内外の関連主体はそれぞれ誰か？
	各主体への責任配分は適切か？
	運営チームの頑張りどころは？
要素	それは可視化・雛形化が可能なことか？
	それは双方向性が必要な過程か？
	既存の形式・手法は応用できるか？
機会	業務サイクルのどこに組み込むか？
	フローの場合分けが可能か？
	それが発生するトリガーはなにか？
UI	用語の統一の基準は何か？
	抽象度(汎用性 /具体性)・量(網羅性/フォーカス)
	それは研究者フレンドリーか？
受容	各要素の導入の順序をどうするか？
	学習の仕組みはどうなっているか？
	運用のフィードバックをどう受けるか？

● 配慮の時間範囲の拡大
- 顕在化している問題だけでなく、将来の問題も予測して配慮

● 配慮すべきステークホルダー像の拡大
- 多様なステークホルダーの認識・研究開発過程への取り込み

● 配慮の問題カテゴリーの拡大
- 侵襲性など最低限の問題をこえ、最新のガイドライン、多様な価値に配慮(=審査対象となる研究の種類が拡大)

● 倫理審査の適用フェイズの拡大
- 研究段階に加え開発・実装段階においても倫理面の審査を実施

避けたいこと	望ましいこと
・研究者らの負担増	・プロポーショナルな負担量
・審査の形骸化・実効性なし	・潜在リスクの発見
・研究提案内容の萎縮	・サポートされて大胆な研究
・属人化・「自主性依存」	・組織的な配慮・リスク対応
・主体性の低下・欠如	・創意発揮・意義・責任感
・知識の欠如・偏在	・組織内議論・学習活性化
・後手対応によるコスト増・レピュテーションリスク	・業界貢献・先行性

高度化とは：
❶ アカデミアも活用し審査を中心とした組織的な倫理的配慮のさまざまな射程を拡大（狭義の高度化）するが、その施策が・・・
❷ R4Dの企業内組織としての、R4Dメンバーの研究者としてのパフォーマンスの追求にも合致するように、
❸ 運営チームがイニシアチブをとり、最適な形態・プロセスでの組織への実装をおこなうこと。

共同研究を支えるもの（大学側）

- 倫理学・人類学・科学技術社会論・リスク学等の専門知
- **学際融合研究で培われた越境の作法と異文化への関心**
- **研究対象・研究成果のイメージの柔軟さ**

→ 文化（ポジティブな研究環境）の共創へ
→ チーム性